

若手社員の定着狙い ワークライフバランスを推進

「妻が出産したばかりなので、今日は早めに退社させてもらいたいのですが…」

こんな男性社員からの申し出に対し、快く首を縦に振るのが長岡塗装店の一貫した姿勢だ。同社は島根県松江市で建築塗装工事業を営む、社員数二四名の典型的な中小企業。しかし会社の規模は小さくとも、「ワークライフバランス」(仕事と生活の調和)に関する力の入れ具合は大企業にも決して見劣りしない。社員の育児や介護を



支援するほか、残業削減を進めるなど働きやすい職場づくりに努めてきた。とにかく社員が「この会社で働けてよかった」と思えるような様々な制度を取り入れている。従業員満足度(E.S.)の向上に、これほどまでに注力している中小企業はそうは見当たらないはずだ。



古志野純子常務

長岡塗装店がE.S強化に動き出したのは、今から十数年前のこと。そうせざるを得ない状況があったからだ。

「ベテラン社員の定年退職を間近に控え、それに代わる若い人材の確保が重要な課題でした。ところが若年従業員を新たに採用しても『3K』(きつい、汚い、危険)の仕事内容を嫌がり、みんなすぐに辞めていってしまう。若年社員の早期離職を防ぐには、手厚いフォローが欠かせないと考えました」と語るのは古志野純子常務。E.S強化の実質的なリーダーだ。先

代社長の娘として経営に携わっている。

一人前の塗装職人になるためには、それなりに時間が掛かる。最初の登竜門とされる「二級塗装技能士」の資格を受験するにあたって、

「一人前の塗装職人になるためには、それなりに時間が掛かる。最初の登竜門とされる『二級塗装技能士』の資格を受験するにあたって、

必要とされていた(現在は二年に短縮)。ところが若い社員にしてみればその三年間が我慢できない。丁稚奉公的な下積み生活を続けるなかで、しだいに塗装職人を目指す気持ちは萎えていくのだ。こうした状況を踏まえ、古志野常務はまず教育体制の整備を目指した。具体的には、実務試験で求められる塗装技術を磨くうえで必要な機材類(合板や塗装材)を用意して

でも、当時は三年間の実務経験が必要とされていた(現在は二年に短縮)。ところが若い社員にしてみればその三年間が我慢できない。丁稚奉公的な下積み生活を続けるなかで、しだいに塗装職人を目指す気持ちは萎えていくのだ。こうした状況を踏まえ、古志野常務はまず教育体制の整備を目指した。具体的には、実務試験で求められる塗装技術を磨くうえで必要な機材類(合板や塗装材)を用意して

さらに古志野常務は二〇〇二年入社間もない男性社員の配偶者が妊娠・出産したのをきっかけに、育児・介護に関する支援制度を充実させた。その一つが、子供が病気をしたときの「看護休暇」。五日の取得が可能で、三〇分単位での取得もOKだ。その他にも「保育料・介護サービス利用費の三分の一を補助する制度」や、育児・介護のためなら出社を遅らせたり、退社を早めたりできる制度をつくらせた。育児だけでなく介護も対象に加えたのは、高齢者が家族にいる社員にも等しく恩恵が得られるようにすることにより、「困ったときはお互い様」という雰囲気社内にも生まれることを期待したからである。

現在、中堅社員として現場の第一線で活躍するAさん(二十代後半)もそのうちの一人。一級塗装技能士や二級建築施工管理技士の資格取得にも成功した。塗装業の仕事に誇りをもって働いている。



実技試験のために胸をみかける環境がある

「質の高い仕事ぶり」に直結

若年社員の早期離職に歯止めをかけるという、当初の狙いに一定の成果を上げた後も、古志野常務

性は社員が妊娠したのを受けて、「二時間までの育児短時間勤務制度」を新たに設けた。さらに〇七年には、一八歳までの子供一人につき毎月一万円を支給する独自の「子ども手当」制度も作った。それ以外にも、週平均労働時間を三九時間間設定して余計な残業は極力なくすようにしたり、休日出勤・深夜残業が避けられない際には代休・振替休日を取得するように指導する体制を築くなど、メリハリのある働き方ができるように配慮した。

これらのワークライフバランスに関する取り組みが行政関係者には高く評価されている。〇八年には、内閣府の「子どもと家族応援する日本」功労者表彰において、東芝やパナソニックと一緒に内閣総理大臣表彰を受賞。地方の中小企業でも、大企業に負けないほどのワークライフバランスの取り組みができることを証明してみせた。当然、従業員も働きやすい職場環境を用意してくれた会社に対して感謝の念を抱いている。会社を辞める社員は病気都合などの例外を除けばここ数年間、基本的にゼロ。

「いまの時代、『従業員満足などと甘いことは言ってもらえない』と、社員に無理な働き方を強いている会社があるかもしれませんが、それは少し間違っていると思います。社員が働きやすい環境、仕事に満足感を覚えられよう環境を会社側が用意してあげれば、社員はそれに報いようと頑張ってくれるものです。ワークライフバランスをはじめE.S強化の取り組みは不況の今だからこそ積極的に目を向けるべき課題といえます」

会社概要
●業種 建築塗装工事業
●代表者 長岡芳博
●設立 1965(昭和40)年4月
●所在地 島根県松江市西郷島1-2-14
●売上高 約5億円
●社員数 24名
●http://www.nagaoka-toso.co.jp/



厚労省・次世代法の島根県内認定第1号の企業でもある

〇五年には、事務職の女

この成果は「質の高い仕事ぶり」となって現れている。塗装工事の出来映えは発注元から高く評価さ

れっており、県内の建設業者ランキングでも上位に名を連ねる。ここに「従業員に優しい会社」というイメージが加わることで、長岡塗装店にはたくさんさんの受注が舞い込んでくる。好調な経営が続けているのはこのためだ。古志野常務がいう。